

# 旧吉田茂邸再建の意義 とコンセプト

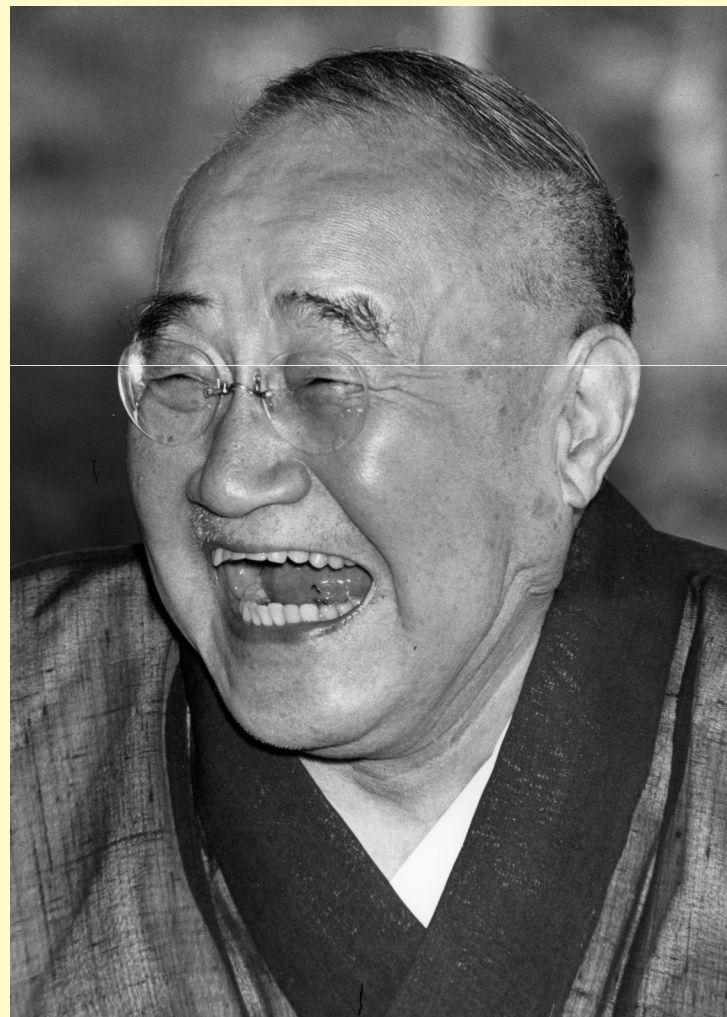
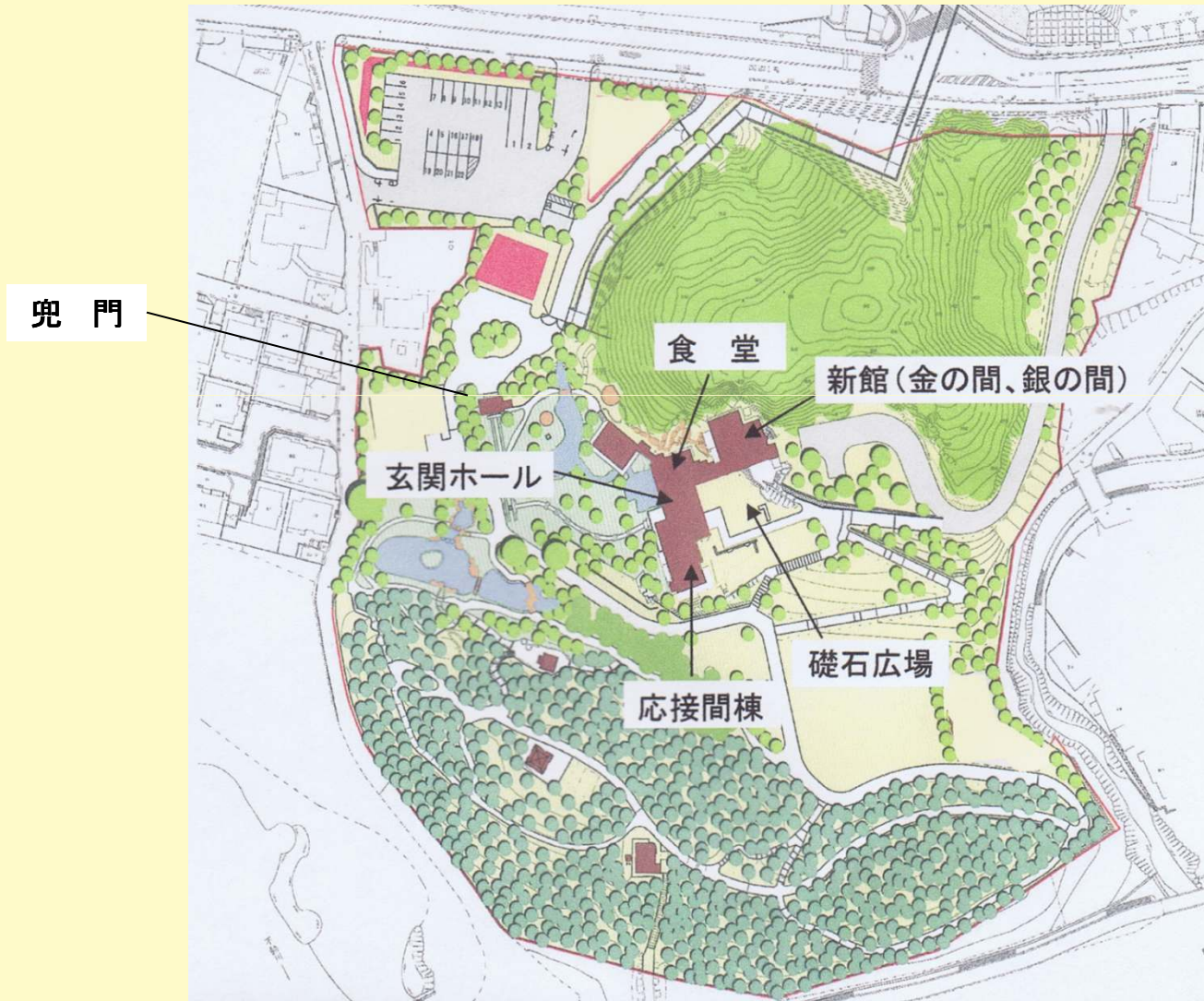


写真 吉岡氏所蔵

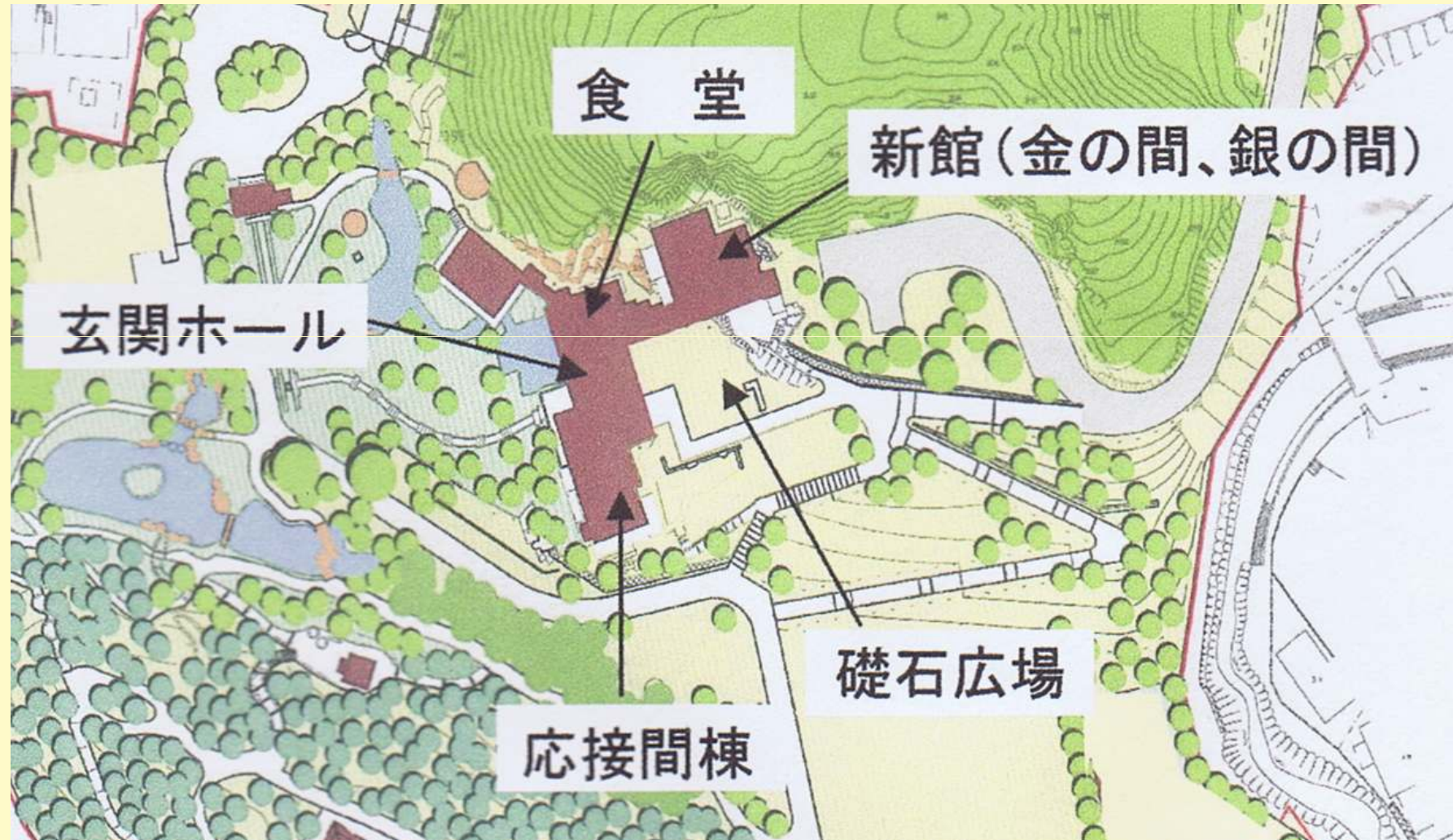
# 再建イメージ図

(旧吉田茂邸再建検討会議 中間とりまとめ)



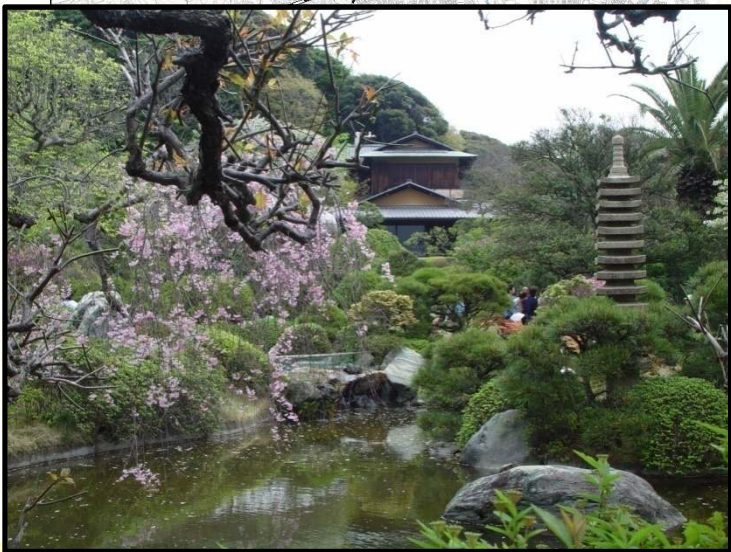
# 再建イメージ図

(旧吉田茂邸再建検討会議 中間とりまとめ)



# 平成21年3月22日本邸焼失





# 吉田茂邸（応接間棟1階）





日本庭園



兜門(講和門)



七賢堂



吉田茂の銅像

# 再建の意義

- ① 丘陵地の緑を背景とした庭園からの景観の再現



- ② 吉田茂の息吹を感じながら、近・現代史を学ぶ場の創出
- ③ 歴史教育・観光の拠点



# サンフランシスコ平和条約 受諾演説の原稿(外交史料館)



# 再建のコンセプト

次の機能を備えた博物館的施設をめざす

- ① 吉田茂の生活空間と交流空間を体感できる機能
- ② 吉田茂の事績や近現代史を学ぶ機能

# 紺碧の海に 緑の映える大磯に



神奈川新聞

発行所 横浜市中区太田町  
2-23 郵便番号231  
神奈川新聞社  
☎045(201)0831  
©神奈川新聞社 1988

大磯町町制施行100年

自然と歴史と文化のまち





昔の俳かい道場そのままに復元され、落ち着いたたたずまいの鴨立庵(しきたつあん)

東西七・六キロ、

南北二キロにまたがる面積は約十七平方キロ。人口およそ三万人。

町としてのい

たちは、一見、何の変哲もない。しかし、日本最初の露天浴場として脚光を浴びた天然の風光に恵まれ、その自然を愛した明治の元勳・伊藤博文が居を構えるにいたり、明野の名士が後に従った歴史の郷(さと)だ。

## 政界の「奥座敷」が発端

### 歴史と変遷

さらに戦後は名譽町民の第一号となった吉田茂。

政界の大御所が

並ぶことも、財界では三菱の創始者・岩崎亦太郎を皮切りに三井、安田などの雄たちともゆかりが深い。



伊藤 博文



山県 有朋



西園寺 公望



大隈 重信



寺内 正毅



原 敬



加藤 高明



吉田 茂

また、明治三十年代には歌舞伎界のスター、五代目尾上菊五郎が、遊藝の別荘を建て、富士を仰ぎつつ小唄を作っていたという逸話は、いまでも懐かしく語り継がれる。

こんな歴史的風土を愛する人たちは後世にも続いている。團地の安田毅彦、高橋誠一郎、文壇の島崎藤村らは昭和に入つて大隈の文化を代表、いずれも名譽町民の名を連ねている。

教育・福祉畑では、昭和二十三年に「エリザベス・サンタリースホーム」を創設、混

# 風光明媚に魅せられて

ける。奥座敷としてこの地名をあけた発端である。伊藤公を筆頭にした歴代総理をたどってみても、山県有朋、西園寺公望、大隈重信、寺内正毅、原敬、加藤高明

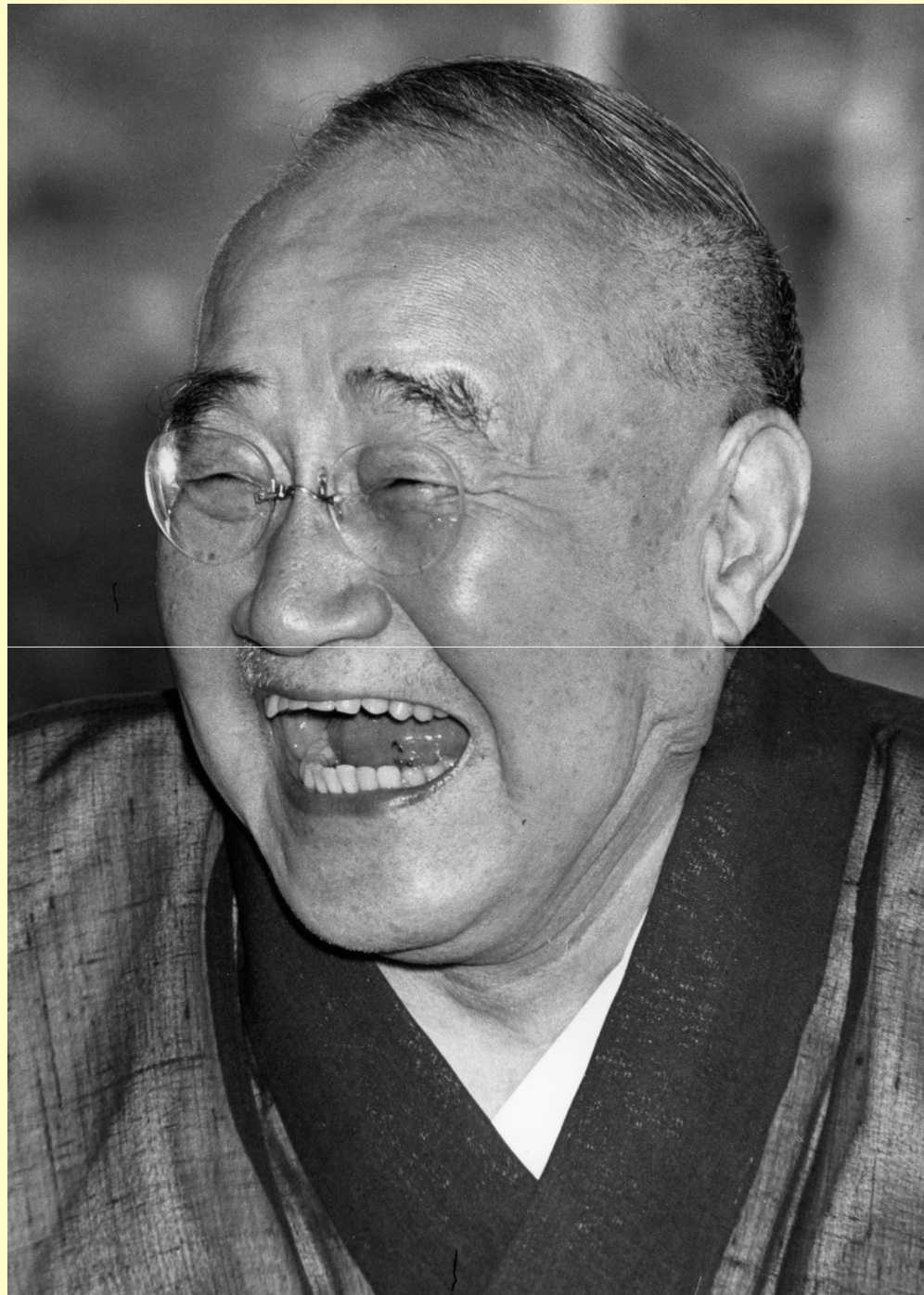


写真  
吉岡氏所蔵